

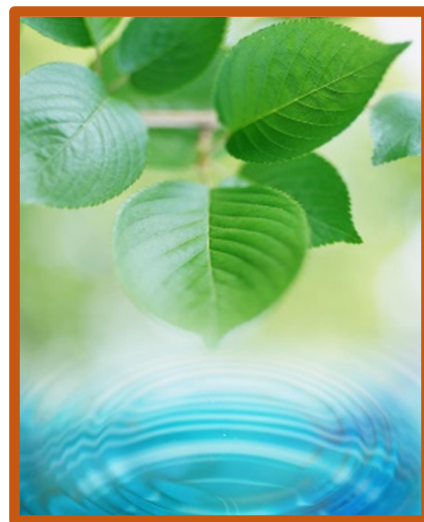


次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年7月4日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1」

幼児の遊びを通した学びが、小学校以降の生活や学習の基盤を形成

- 幼児は、興味や関心をもったものに対して自分から関わろうとする。この自らの興味や関心から発した直接的で具体的な体験から、幼児は、幼児なりのやり方で、自分の生きる世界について学び、様々な力を獲得していく。幼児が、遊びを通して学ぶことの楽しさを知り、積極的に物事に関わろうとする気持ちをもつようになる過程こそ、小学校以降の学習意欲へとつながっている。幼児期に多様な体験をし、様々なことに興味や関心を広げ、それらに自ら関わろうとする気持ちをもつことが重要



<幼児は、これまでの体験を生かして試行錯誤しながら、探究を行っている>

- (例) 冬に容器に入れた水が凍ることに気付き、厚い氷を作ろうと競争する中で、なぜある場所に置くと厚い氷ができるのだろうかという疑問が生まれ、様々な場所に容器を置いて比べたり水に葉っぱを入れたらどうなるかなど、予想を立てたり確かめたりする。

<幼児は、体験を積み重ねたり関連付けたりすることを通じて、気付いたり考えたりする>

- (例) 遠足で木立の間を散策しているときに、みんなで読んだ絵本の中の「こもれび」という言葉を思い出して、木の下から空を見上げながら、「これ、『こもれび』だね」と気付いて、友達と伝え合う。

<幼児は、自ら心身を用いて環境に関わる体験をしている>

- (例) ・鉄棒にぶら下がる、ブランコに乗る、滑り台を滑る…
・紙をちぎる、紙を丸める、テープで貼る、色を塗る、絵を描く…
・箱をたたいて音を出す、歌を歌う、音楽に合わせて踊る… など

「環境」とは

用具、素材、絵本や図鑑、机や棚、園庭、砂場、遊具、動植物、教師、他の園児 など

【教師の関わり】

- (例) ◆遊具や用具、素材、絵本・図鑑などを、教育的意図の基に配置し、環境を構成する。
◆モデルとして環境に関わる姿を見せる。
◆肯定したり、問いかけたり、振り返りを促したり、共に喜んだりする。

よき人物から学ぶ

あ る い な
教え有りて類無し。

(訳) この世ではどんな人物に出会い、いかなる教育を受けたかによって違いは生じるが、人間に、生まれつきの上中下といった種類の差はない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）